

# 私立 東京経済大学

プログラムの名称：TKUベーシックプログラム

-- 学生・教職員の協働による体系的「TKUベーシック力(10のちから)」の修得

プログラム担当者：副学長・経済学部 教授 堺 憲一

キーワード

1. TKUベーシック力 2. 社会人基礎力の育成 3. TKUベーシック力ブック  
4. 総合的にサポートする「学習センター」 5. 学生サポーター

## 1. 大学の概要

東京経済大学は、1900(明治33)年、明治期実業界の先導者の一人である大倉喜八郎によって創設された大倉商業学校を前身としている。その建学の理念は、世界共通の商業知識を身に付け、世界を相手として商業活動をするのできる経済人(『世界に通用する商人』)を育成するところにあった。

その後、1920(大正9)年に大倉高等商業学校に昇格し、さらに、第二次大戦後の1949(昭和24)年に学制改革に伴って新制大学に昇格し、校名を東京経済大学に改め、経済学部1学部の単科大学として発足した。1950(昭和25)年には短期大学部、1964(昭和39)年には経営学部を設置し、1970(昭和45)年以降、大学院を開設し、その拡充を図った。

1990年代に入り、教育の質的充実と社会の多様化する教育需要に応えるため、学生総定員を増やさずに学部学科の再編成が進められた。1995(平成7)年に我が国最初のコミュニケーション学部を開設し、さらに1998(平成10)年に経営学部に通商マーケティング学科、本学創設100周年に当たる2000(平成12)年に21世紀の法化社会の人材育成を目指す現代法学部、2002(平成14)年に経済学部国際経済学科を開設した。

また同年、学部学科という枠組みを越えて学ぶことができる「21世紀教養プログラム」が設けられた。

このようにして、本学はほぼ10年の間、現代社会の諸要請に積極的に対応し、学部・学科・大学院の整備・拡充を図り、カリキュラムや教育方法にも創意工夫をこらしつつ改善を図り、複雑化した社会において多様な課題に対処できる能力を身に付けた人材の育成のため、不断の教育改革に取り組んできた。

## 2. 本プログラムの概要

本学の理念には、「建学の理念である『進一層』の気

概を持ち、『責任と信用』を重んじ、実践的な知力を身に付けてグローバル社会で活躍する人材の育成を図る」ことが明確にうたわれている。とりわけ、「学生とともにある大学」であることを宣言し、「学生一人ひとりの立場にたって、学生生活を支援し、学習環境の不断の改善に努める」ことが大学の目的とされている。2004(平成16)年度から学生支援等担当副学長を設置し、そのもとで、全学的に学生支援に関わる各種委員会を糾合し、「学生支援会議」をスタートさせたが、その目標も「入学から卒業までを通じた総合的な学生支援」を行うためである。

本学は、2007(平成19)年度より、これまで行ってきた正課・課外の各種学生支援をより体系的に充実させると同時に、建学の理念の具現化と社会的要請の強い「社会人基礎力の育成」を目指して、「TKUベーシックプログラム」をスタートさせた。そのため、すべての学部学生が身に付けてほしい「10の力」を「TKUベーシック力」と定め、「ができるようになる」という身近な目標を提示し、修得の具体的なガイドとなる『TKUベーシック力ブック』を作成した。

さらに「TKUベーシック力」の修得支援を行い、入学から卒業まで総合的にサポートする「学習センター」を新たに設け、個別相談や独自講座・イベントを行う。「学習センター」の企画・運営は、「教員運営委員」、入学から卒業までに関わるすべての学生支援部署から選抜された「職員サポーター」、学生会をはじめとする学生諸団体代表による「学生サポーター」、身近な相談相手である「大学院生サポーター」の四者の協働で行われる点が特長である。

## 3. 本プログラムの趣旨・目的

(1) 取組を実施するに至った動機と背景

本学は、現在、「東経大プロフェッショナル宣言！一歩先へ、チャレンジできる大学です」という広報を展

開している。これは、2007（平成19）年度より「TKUチャレンジシステム」という新しい教学上の試みを始めたからである。「チャレンジ」というとありふれた言葉に思われてしまうが、本学にとっては、建学の理念に関わる最重要キーワードであり、創立者の大倉喜八郎が好んで使った言葉である「進一層」をわかりやすく言い換えたものである。「TKUチャレンジシステム」は、「アドバンスプログラム」と「ベーシックプログラム」の2つから構成されている。

「アドバンスプログラム」は、各学部の伝統や特色を生かし、資格の取得、キャリア形成、特定の能力開発を目指すものである。プロフェッショナルな資格を目指すのが、経営学部の「会計プロフェッショナルプログラム」と現代法学部の「法プロフェッショナルプログラム」。キャリア支援を強く意識したのが経済学部の「金融キャリアプログラム」。経済学部の「海外研修特別コース」は、海外体験や語学力の向上を目指す。いずれも目的が明確化した特定の学生を対象に支援しようという特進的な正課プログラムである。さらに正課外ではあるが、全学部対象の「TKUベルリッツプログラム」がある。

一方、「ベーシックプログラム」は、本学に入学してくる様々なタイプやレベルの学生に対し、「一歩先へ」を強く意識してもらい、チャレンジ目標を積極的に見つけることを目的としたプログラムである。合わせて、本格的な「チャレンジ」をする場面に遭遇してもあわてないように、必要となる基礎的な力（TKUベーシック力）を身に付けてもらうための総合的な学生支援プログラムである。

すでに、本学に入学してくる半数近くが推薦入学やAO入試といった複数教科の学力試験のチェックを受けていない学生である。入試偏差値は50前後であるが、実際の入学者の成績格差は歴然とある。そこで、やはり、早期に全学共通の基礎学力を身に付けてもらう必要がある。

### （2）本学における取組の意義（意味）

学内で「ベーシックプログラム」を検討するにあたり、まず、どのような観点で、どこで議論するかが問題になった。従来であれば、「基礎学力」や「学習支援」の課題なので、全学教務委員会や全学共通教育センター・各学部の教務委員会で議論されるところだが、「人間力」や「キャリア形成」の観点を重視し、総合的な学生支援であると位置づけ、「学生支援会議」のもとに「ベーシックプログラム委員会」を新設した。学生支援

等担当副学長が責任者となり、全学教務委員長、学生委員長、全学共通教育センター長、学生支援部長、学務課長、キャリアセンター長によって構成される。当委員会では、「若年者就職基礎能力」や「社会人基礎力」等の社会からの要請を強く意識し、他大学の先行事例も参考にしながら、まず、「本学の理念・目的・教育目標」を再確認し、それを具現化し、他大学にはない本学の独自性や特色がでるような「TKUベーシック力」をまとめる作業を行った。その結果、これまで抽象的であった「本学の理念・目的・教育目標」が社会からの要請と一致して、みるみる現実的なものに変化していった。

それぞれの能力項目についての具体的な修得方法としては、従来から、各学部・全学共通教育センターの「正課カリキュラム」で各種授業が開講されているものもあり、課外でも「キャリアセンターの就職・キャリア支援行事」、「キャリアサポート講座での資格取得支援」等が積極的に展開されており、学生相談室をはじめとする対学生窓口をもつ各部署でも学生個別支援が行われてきた。

しかしながら、あらためて「TKUベーシック力」の重要性を認識し、さらにこれらを充実させ、これまで、各部署で個別に行われてきた支援活動を有機的に結び付け、一層の修得成果を上げなくてはならない。

そのためには、既存の組織や各部署を横断的に結び付け、連携を強化させるコーディネート機能や足りない支援を補完する機能、新しい実験的な支援の試みをする機能が必要であり、その中心となるのが新設した「学習センター」である。

それを企画・運営するのが、専任教員の運営委員（相談員）と学生支援部学習センター職員から構成される「学習センター運営委員会」である。さらに、入学から卒業までの学生支援を担当する関係事務部署から各1名ずつ選抜した「職員サポーター」、学生会（自治会）を初めとする学生7団体から各1名ずつの代表者を募る「学生サポーター」、「大学院生サポーター」の協働で、「学習センター」の企画・運営を支援する。そして、以上の全学的な「TKUベーシック力」修得支援協働活動を総称して、「ベーシックプログラム」と呼ぶ。

## 4. 本プログラムの独自性（工夫されている内容）

### （1）本学独自の特色

#### （i）TKUベーシック力

TKUベーシック力は、3つの区分の「10のちから」

から構成される。

TKUベーシック力の基本的区分

I TKUアイデンティティ

「進一層」の力

TKU常識力

II 現代版読み書きそろばん

日本語力

数的思考力

英語基礎力

IT活用力

III TKU社会人基礎力

TKUマナー力

キャリア形成力

調査・分析・論理的思考力

実践的コミュニケーション力

「TKUベーシック力」として、新入生に対し、まず、他大学にはない本学独自の歴史と伝統の力を示す。本学の大倉商業学校以来の107年の歴史で10万人いる卒業生のそれぞれの「進一層（創始者の大倉喜八郎をはじめ、先輩方の様々な活躍）」を知ることによって様々な刺激や元気をもらう。

また、本学の持つ人的・物的教育資源の活用を積極的にアピールし、「東経大生」であることの自信と誇りを持ち、最初の第一歩（進一層）を踏み出してもらいたい。

さらに、社会科学系の総合大学である本学の他にはない強みは、4学部（経済・経営・コミュニケーション・現代法）の総合力で、「就職基礎能力」も「社会人基礎力」も育成することが容易であるということである。「経済・経営の常識を備え、法化社会にも適応でき、コミュニケーション能力の高い学生」という理想像が浮かび上がる。「TKUベーシック力」で設定した「TKU常識力」は、まさに、4学部のどの学生でも全員が本学の総合力の基礎の基礎を持つということである。

「TKUベーシック力」は、現代版読み書きそろばんであり、4年間の学習のベースになる力である。英語やコンピュータ・リテラシーは正課で必修科目となっており、日本語力や数的思考力も選択科目で開講されているが、特にこれらの力は、就職試験の筆記試験でも必須であり、現代学生の弱点とも言われているので特に強化したい。

「TKUベーシック力」は、将来各自がどんなキャリアを歩もうと真の実力となっていく「ジェネリックスキル」であり、身に付ける場所は、正課ではゼミや

各種の少人数授業が中心となるが、サークル活動・文化祭等の実行委員会やインターンシップ、ボランティア等課外活動の場も重要であり、大学全体でのトータルな学生支援が必要となる。

(ii) 『TKUベーシック力ブック』

これらの「TKUベーシック力」については、能力の厳密な定義やレベル設定をし、その到達度を客観的に測る考え方もあるが、本学では、まず、学生に「TKUベーシック力」の必要性や重要性を知ってもらうことが最優先であり、最初は、「TKUベーシック力」それぞれの大きな「身に付ける目安」を示すことにした（表1参照）。

そして、その具体的なガイドブックとして『TKUベーシック力ブック』（写真1参照）を作成し、1年生には、入学式での学長の説明とともに全員に配付し、1年次ゼミ等で活用している。2年次生以上の希望者にも配付し、上級生のゼミで活用されている例もある。

なお、今回、ブックの作成に当たって、基本構想を学生サポーターに示し、アンケート調査で回収した意見を編集に反映した。今後も『TKUベーシック力ブック』は、学生・教職員・外部者等の評価を積極的に反映・改善し、3年計画で内容を完成させる。

(iii) 「学習センター」

2007（平成19）年10月に開設した「学習センター」（写真2参照）において、「TKUベーシック力（10の力）」の修得支援を中心に学習全般にわたる個別相談や独自講座・イベントを行う。「学習センター」の施設は、「個別相談スペース」「みんなで学習スペース」「講座・ひとりで学習スペース」からなり、とりわけ「みんな

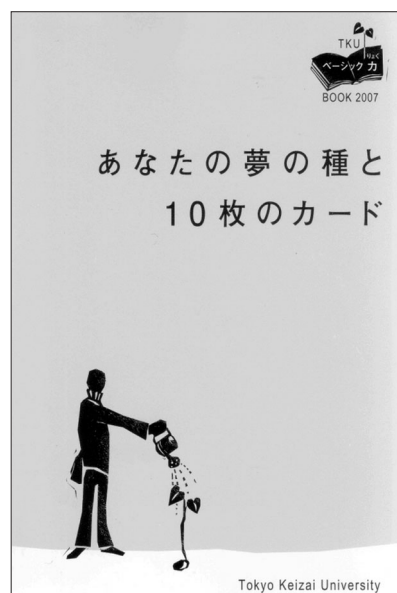


写真1 『TKUベーシック力ブック2007』

表1 TKUベーシック力の具体的な目安

TKUベーシック力Ⅰ (TKUアイデンティティ)	
①「進一層」の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●TKUで何か一つ新しいことを始めてみる</li> <li>●様々なことにチャレンジしようという意志を持つ</li> </ul>
②TKU常識力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新聞を読むことが習慣となる</li> <li>●テレビのニュース番組の内容がほぼ理解できる</li> <li>●社会の出来事について、先生や友人と積極的に話せる</li> </ul>
TKUベーシック力Ⅱ (TKU読み書きそろばん)	
③日本語力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義の内容を正確に理解することができる</li> <li>●自分の考えや調べたことを的確に表現し、意見交換ができる</li> <li>●知っている語彙や漢字を増やして、より豊かな表現ができる</li> </ul>
④数的思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●筋道を立てて客観的に物事を考えることができる</li> <li>●新聞や授業等で出てくる簡単な表やグラフを理解できる</li> </ul>
⑤英語基礎力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●TOEICのスコア400～450点をクリアできる</li> <li>●SPIをはじめ採用試験の英語系問題に答えることができる</li> <li>●いろいろな場面で英語を使ってみようという積極的な態度と自信を身に付ける</li> </ul>
⑥IT活用能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インターネットやe-mailを活用した情報収集、コミュニケーションを円滑に行うことができる</li> <li>●大学の勉強にパソコンを利用することができる</li> </ul>
TKUベーシック力Ⅲ (TKU社会人基礎力)	
⑦TKUマナー力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者の立場を理解し、相手に不快感を与えない</li> <li>●相手や場面に応じた言葉づかいができる</li> <li>●集団の中で共通の目的のために協力することができる</li> </ul>
⑧キャリア形成力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己分析を行い、自分の適性をよく理解する</li> <li>●世の中にある仕事の中身や求められる力を理解する</li> <li>●志望理由や将来の目標を自分の言葉で他者に説明できる</li> </ul>
⑨調査・分析・論理的思考力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマを決めて、情報収集することができる</li> <li>●たくさんの情報の中から必要なものを選び取ることができる</li> <li>●自ら課題を見つけ、改善の方法を提案し、実行することができる</li> </ul>
⑩実践的コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゼミやサークル等の課外活動に積極的に参加する</li> <li>●ボランティアや海外研修等でいろいろな人に出会う</li> <li>●インターンシップやアルバイトで仕事に挑戦する</li> </ul>



写真2 「学習センター」入口



写真4 「みんなで学習スペース」



写真3 「学習センター」スタッフ (インターカー)



写真5 「講座・ひとりで学習スペース」

で学習スペース」は学生・教職員が協働で企画・運営を行う積極的なコミュニケーションスペースであり、学生・教職員双方の元気支援センターともなる。学生の視点からの多彩なイベントや講座を実験的に取り組み、成果が期待できるものは、正課教育等での実施に移行していく。なお、学習スペースは、20時まで利用可能であり、夜間と土曜日は「大学院生サポーター」が相談に応じる（業務内容は表2参照）。

(2) 他大学での導入の可能性

本学における「ベーシック力」育成支援は、正課授業における学生個別管理を強化する方法ではなく、学生・教職員のコミュニケーションの中から様々な「小さな成果」を丁寧に褒めていくことで、学生を元気付け、大学全体が活性化することを期待するソフトな手法である。本学のような中規模大学では、導入しやすいと思われる。

5. 本プログラムの有効性（効果）

学生支援会議のもとで総合化された現在の学生支援にさらに「TKUベーシック力の育成」という目標が明確に設定され、「学習センター」という実働部隊が誕生したことで、一層有機的な連携支援が可能となる。また、学生参加型である点が特長で、「学習センター」の成果が、学生支援会議を通して、FDや教学改革にも生かされることになる。

6. 本プログラムの改善・評価

ベーシックプログラム委員会や「学習センター」の活動は、定期的に学生サポーターの評価点検を受け、さらに一般学生の意見聴取も行う。学生支援会議でも定期的にチェックされ、改善指示書がまとめられる。

必要に応じて教授会等の教学組織や予算編成等の大学運営組織でも点検を受け、次年度の活動を再構築す

表2 「学習センター」の主要業務

センター 利用可能 時間	個別相談（9：00～17：00） 学習スペース利用（9：00～20：00） 昼休みイベント（12：20～12：50）	
TKU ベーシッ ク力 修得支援	支援 ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『TKUベーシックカブック』作成</li> <li>●『10のカ別サブブック』作成 「学習スキル」「TKU常識力」等</li> <li>●『ベーシックカリーフレット』作成 10のカごとの1テーマブック</li> </ul>
	講座・ イベント (例示)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生企画 「世界について学ぼう」「ゼミで発表」</li> <li>●教職員講座 「副学長ワンポイント講座」「英語を味方につけようシリーズ」「趣味&amp;カルチャー（アート・工作）」</li> <li>●外部委託講座「就職応援シリーズ」 （英語・日本語・数的思考力・常識）</li> <li>●連携企画「食育講座」生協との連携</li> </ul>
	修得度 チェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「TKUケータイDEチャレンジ」 （英単語・漢検・マナー・TKUベーシック力をケータイで毎日チェック）</li> <li>●TKUベーシック力検定</li> <li>●ベーシックミニテスト</li> </ul>
個別 学習相談	<p>①学習センター員（インターカー）（写真3参照） 学生の相談内容に応じ、学内の最適な教職員や部署を探しつなぐ役割 ＊職員サポーターによる横断的連携体制</p> <p>②学習センター教員運営委員相談員 ベーシックカごとの分野別相談実施</p> <p>③大学院サポーター（夜間と土曜日の相談担当）</p> <p>④専門相談員（外部委託スタッフ） TKU常識力、日本語力、数的思考力、英語基礎力等を特に重視した個別相談実施</p> <p>⑤ポータルサイト質問対応</p>	
学習ス ペー ス管理	<p>①「みんなで学習スペース」（写真4参照）</p> <p>②「講座・ひとりで学習スペース」（写真5参照）</p> <p>③「キハチロ文庫（ベーシックカ本コーナー）」 図解説本を中心にビジュアルな教養書や検定本まで幅広くわかりやすい面白い本を多数収集</p>	
FD活動 側面支援	他大学調査、学習センターデータ提供、学習センター活動報告イベント等実施	
自己点 検 活動	学生満足度調査（ポータルサイト活用）、 外部評価依頼	



る。また、「学習センター」の活動を広く学外公開するイベントを開催し、外部者の点検も受ける。

### 7. 本プログラムの実施計画・将来性

「TKUベーシックプログラム」は、学生支援会議の下で「ベーシックプログラム委員会」が管理運営していく。「学習センター」は「学習センター運営委員会」と「職員サポーター」と「学生サポーター」「大学院生サポーター」の四者で企画運営し、段階的に卒業生や専門相談員（外部スタッフ）へ協力を広げていく。なお、補助期間終了後も人的・物的・財政的には本学が長期的な取組を行う。

「TKUベーシックプログラム」の年次計画は次の通り。

#### 2007（平成19）年度

「TKUベーシック力（10の力）」を明確化し、その重要性を広く学生に知ってもらうために『TKUベーシック力ブック』を作成し、新入生全員に配付し、1年次ゼミ等で活用する。2007（平成19）年10月に開設の「学習センター」において、「TKUベーシック力」の修得支援を中心とした学習に関する教職員による個別相

談を開始する。また、センター独自のイベントや講座を企画実施し、学生のセンター利用促進に努力する。

#### 2008（平成20）年度

学生、教職員の声を基に『TKUベーシック力ブック』の改訂版を作成する。2年目は、全学生を配付対象とし、正課授業との連携を深める。また、10の力ごとの『サブガイドブック』を作成する。「学習センター」における相談員を拡大し、教職員のみならず、学生サポーター、卒業生サポーター等も積極的に活用する。「TKUベーシック力検定」等学生諸団体と共催するイベントも企画する。外部公開のシンポジウムを開催する。

#### 2009（平成21）年度以降

『TKUベーシック力ブック』を完成させ、入学前の高校生等を含め広く社会にむけて発信していく。「学習センター」は、「休学者・退学希望者」「成績不振者・留年生」「その他のハンディキャップのある学生」等にもサポートを拡大していく。正課において「TKUベーシック力」を修得支援する全学共通の授業科目の常設化を目指す。学生の留年率の減少と就職率の増加、休・退学率の減少を目指す。

### 選 定 理 由

東京経済大学においては、学生支援に対する明確な理念や目標を持ち十分な効果が得られていると認められます。現在の取組も学生支援等担当副学長を置き、その指揮下に設置した「学生支援会議」を通じて体系づけられており、教員組織と事務組織が一体となった意思決定手順や実施体制が十分整っていると認められます。

今回申請のあった「TKUベーシックプログラム」の取組は、単に「基礎学力」をつけさせるというものでなく、社会的ニーズに呼応する「社会人基礎力の育成」を目指し、入学してくる学生に対して「建学の精神」を十分に教育することによる「アイデンティティの確立」を根底に置いた上にプログラムが策定されていることに優れた意義が認められます。また、新たに開設される「学習センター」は、学生・教職員が協働して企画・運営を行うという学生参加型であることも評価できます。

現在の学生支援の取組を発展させる形で、新たな取組が立案されており、これを実施することにより十分な効果の拡大が期待され、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。